

勝持寺子院跡の発掘調査

一室町時代後半の寺院の石垣―

(財)京都市埋蔵文化財研究所 南 孝雄

はじめに

勝持寺は洛西、西山山地の小塩山の麓、標高 130 ～ 170 m に位置する天台宗の山林寺院です。縁起は必ずしも定かではありませんが、一般には『日本紀略』仁寿元年(851)二月十二日条にみえる「大原寺」が勝持寺の前身とされています。中世(鎌倉・室町時代)になると、勝持寺は多くの寺領を持ち繁栄したことが古文書などの史料によりうかがうことができます。寺伝では足利尊氏の庇護を受け、子院の数は 49 を数えたと伝えられています。また、『太平記』には佐々木道誉(京極高氏)が花見の宴を催した様子が記されています。

勝持寺が遺跡として周知されたのは比較的最近の事で、平成 19 年度に行われた分布調査において、南面する石垣(地上露出部分：高さ 1.5 m、東西長 12 m)と石塁遺構(地上露出部分：高さ 0.3 m、東西長 40 m)が確認されたことによります。この段階では、これらの遺構の時期については不明でしたが、旧境内地に含まれることから、勝持寺の子院に伴う遺構である可能性が高いと考えられました。

この地区に国土交通省による京都第二外環状線の道路建設工事が計画され、石垣・石塁遺構が工事の影響を受けることが予想されたため、発掘調査を実施することとなりました。調査面積は石垣・石塁遺構を中心とする約 4.300 m²です。調査は 1 ～ 4 区の調査区に分けて行いました。

1. 調査地の位置

勝持寺の本寺から南東へ約 300 m、勝持寺の正門である仁王門の西側に位置します。

調査地は地形的には大きく 2 つに分かれます。1 区は小塩山から東へ延びる尾根地形の先端部に位置し、標高 144 ～ 145 m を測ります。2 ～ 4 区は 1 区の尾根裾部にあたり北西から南東へ緩やかに下がる傾斜地に位置しており、標高 136 ～ 140 m を測ります。

2. 調査の概要

発掘調査の結果、2 ～ 4 区では傾斜地を削平することによって作られた平坦面が検出され、この中に井戸や区画溝などの生活痕跡が確認されました。平坦面が造成されるのは 13 世紀初頭で、この頃に子院としての土地利用が始まったと考えることができます。また、16 世紀前半までの遺物しか出土しないことから、この頃には子院は廃絶したようです。

1 区は尾根の先端部に位置しますが、丘陵先端部を削平した平坦面に掘り込まれる 13 世紀の土坑が検出されていることから、やはり鎌倉時代には、子院としての土地利用が始まっていることが分かります。15 世紀後半になると、丘陵先端部の南斜面と東斜面に造成土を入れることによって、平坦面を拡張する工事を行います。この段階で行われた造成面の拡張幅は 5 ～ 12 m を測り、造成土の積み上げは、最も厚くなる 1 区南東部では約 3 m にもなります。この造成土を土留めするために、造成平坦面の南辺部は石垣 65、東辺部は石垣 66 が構築されました。石垣 66 の北端では、1 区に存在した子院の出入口となる東向きの門 122 が検出されています。石垣背面の造成土の盛り土工事は、造成土がズレないように土とともに礫を多用した入念な作業が行われています。更に石垣 65 背面となる約 7 m 北側では、造成土の中に石垣 65 と並行する石垣 127 を築いています。これも造成土が地崩れしないようにするための工夫です。2 区では、石垣の南東隅部から参道に向かって延びる石塁 69 を検出しています。石塁 69 は残存高 0.8 m、基底部幅 0.8 m、検出長約 30 m を測ります。これは分布調査によって確認されていた遺構で、石垣と同時期に構築された、2 区の南北を分割する区画施設です。

3. 2 種類の石垣(石垣 65 と石垣 66)

石垣 65

- ・ 1 区南斜面の比高差は約 3 m。石垣 65 は 2.4 m の高さを一気に石を積み上げます。
- ・ 規模：東西方向に延び、長さは約 30 m、高さは最大 2.4 m、勾配は約 70° を測ります。石の積み上げは直線的で、石垣として古い特徴を持ちます。
- ・ 石の大きさ：表面から観察できる大きさは 0.3 ～ 0.5 m のものが多く、0.7 m 程度のものも少数存在します。石の置き方は縦使いにしており、奥行の長さは表面のおおむね 2 割増しになります。
- ・ 石材：チャートや砂岩などの丹波帯の石材を主とします。
- ・ 裏込め：石垣下半部にのみ背面造成土の土留機能を兼ねた礫層が存在します。
- ・ 天端石：径 0.3 m 程度の小さい石です。石の上面は褐色の砂泥層で覆われており、天端石は地表面には露出しません。
- ・ 時期：石垣背面の造成土中より、何らかの儀式に使用されたと思われる 15 世紀後半の多量の土師器皿が出土しています。これは石垣の構築時期をあらわすものです。

石垣 66

- ・ 1 区東斜面の比高差は約 4 m。高い石垣を積むことはせず、2 ～ 3 石を積む 1 段 0.4 m 程度の石垣を階段状に積み上げて土留めしています。
- ・ 規模：南北方向に延び、長さは約 24 m です。
- ・ 石材：チャートや砂岩などの丹波帯の石材を主とします。
- ・ 裏込め：背面造成土の土留機能を兼ねた礫層が存在します。
- ・ 時期：石垣 65 と同時施工であり 15 世紀後半です。

4. 造成土の構築方法

造成土の積み上げ方法は、まず、尾根地形先端部の傾斜を緩やかにするために、地山面の上に厚さ20～30cm程度の土を盛ります。次にこの上に拳大・人頭大の礫による礫層を構築します。礫層は透水層として機能したものと思われます。石垣66背面の地形的に低くなる東部では、造成土中に幾層にも礫層が確認されており、これらの礫層の中には、礫のみの層と粘質土の中に礫を多量に含むものがあります。後者は透水層ではなく、造成土が前方にずれることを防ぐための土を固めるためのものです。

石垣65の約7m北側では、造成土の中に高さ0.6m、東西長12mを測る石垣127を検出しています。これは造成土を盛り上げていく過程で構築されたもので、造成土中に埋没する石垣です。これも造成土が前方にずれることを防ぐために構築されたものです。

このような土木工事には、経験に裏打ちされた高い専門知識が必要であり、工事における土木技術者たちの存在が考えられます。

5. 絵図との比定について

勝持寺には江戸時代の初めの寛永元年（1624）に描かれた境内図が残されています（非公開）。絵図は現在の地形と比べてもかなり正確に描かれています。この絵図と今回の調査地を比定すると、1区は「阿弥陀坊跡」に比定できます。この絵図には多くの子院が記されていますが、すべて「〇〇坊跡」となっており、江戸時代の初めには本寺を除いて子院は無くなっていたようです。今回の発掘調査でも16世紀中頃以降の遺物の出土はほとんどなく、この頃には多くの子院は廃絶したと考えられます。これまでは、絵図に描かれたような子院が存在したのかどうかも不明でしたが、今回の発掘調査によって、子院の存在を明らかにするとともに絵図の信憑性を高めることとなりました。絵図に記された子院名は当時残されていた記録や伝承によって記されたのでしょう。

6. まとめ

今回の調査で明らかとなった大きな成果として、15世紀後半の大規模な石垣（石垣65：長さ30m、高さ2.4m）の検出があります。同時期の石垣として、滋賀県米原市の能仁寺跡（検出長14m・高さ1.5m）、京都市の東山殿（銀閣寺）（検出長20m・高さ2.4m、2段築成）、和歌山県岩出市の根来寺子院跡（検出長15m・高さ3.8m、但し高さ1.5m部分を含めると延長40m）、福井県勝山市の平泉寺子院跡（検出長数100m・高さ1.2～2.5m）などがある。東山殿を除けばすべて寺院跡の調査です。

中世における文献史料上の最古の石垣は、天文5年（1536）の滋賀県観音寺城（近江守護職佐々木氏）の石垣普請記事です。この石垣普請に際しては、金剛輪寺（天台宗）の普請集団「西座」が深くかか

わったことが知られています。また、足利義政による東山殿の「石蔵」構築時には延暦寺に繋がりのある「あなうもの」が関係したことが史料により知ることができます（『久守記』長享2年（1488））。

城郭に石垣が本格的に使用されるのは16世紀も後半になってからです。それ以前の石垣は、発掘調査の成果や史料が示すように寺院で構築されたものがほとんどです。中世に建築を伴う大規模な土木工事は、山地または平地でも寺院が行うことが多く、このため寺院内で土木技術が発達したようです。武家がそのような工事を行う場合は、東山殿造営時の「あなうもの」の参加にみられるように、寺院側から技術者を借り受けたと思われます。

西山の山中には、善峰寺、三鉢寺、十輪寺、金蔵寺など創建が平安時代に遡る山林寺院が存在します。これらの寺院の周辺には、今回発見された石垣とよく似た石垣が残されている所もあり、西山周辺には、延暦寺周辺とは別に技術者集団がいたのかもしれませんが。



図1 勝持寺位置図

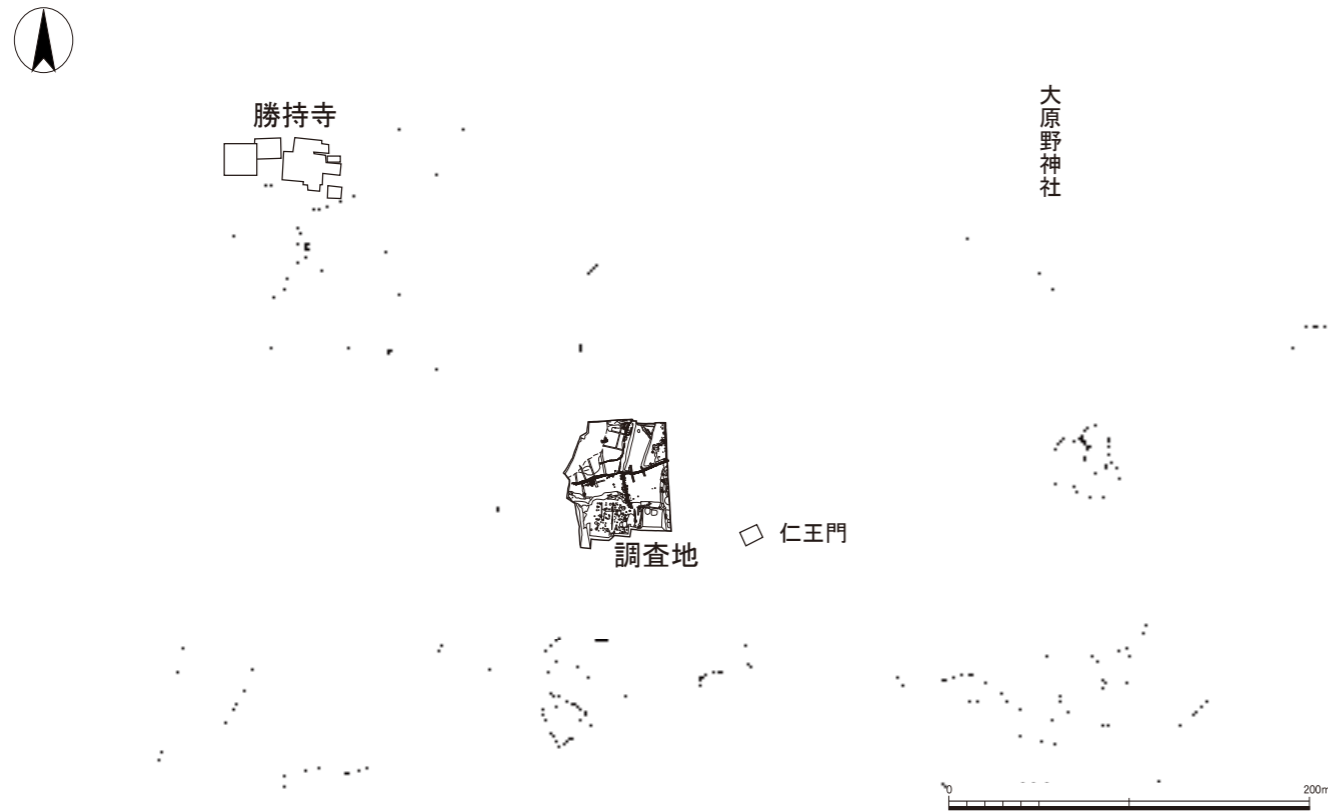


図2 調査地位置図

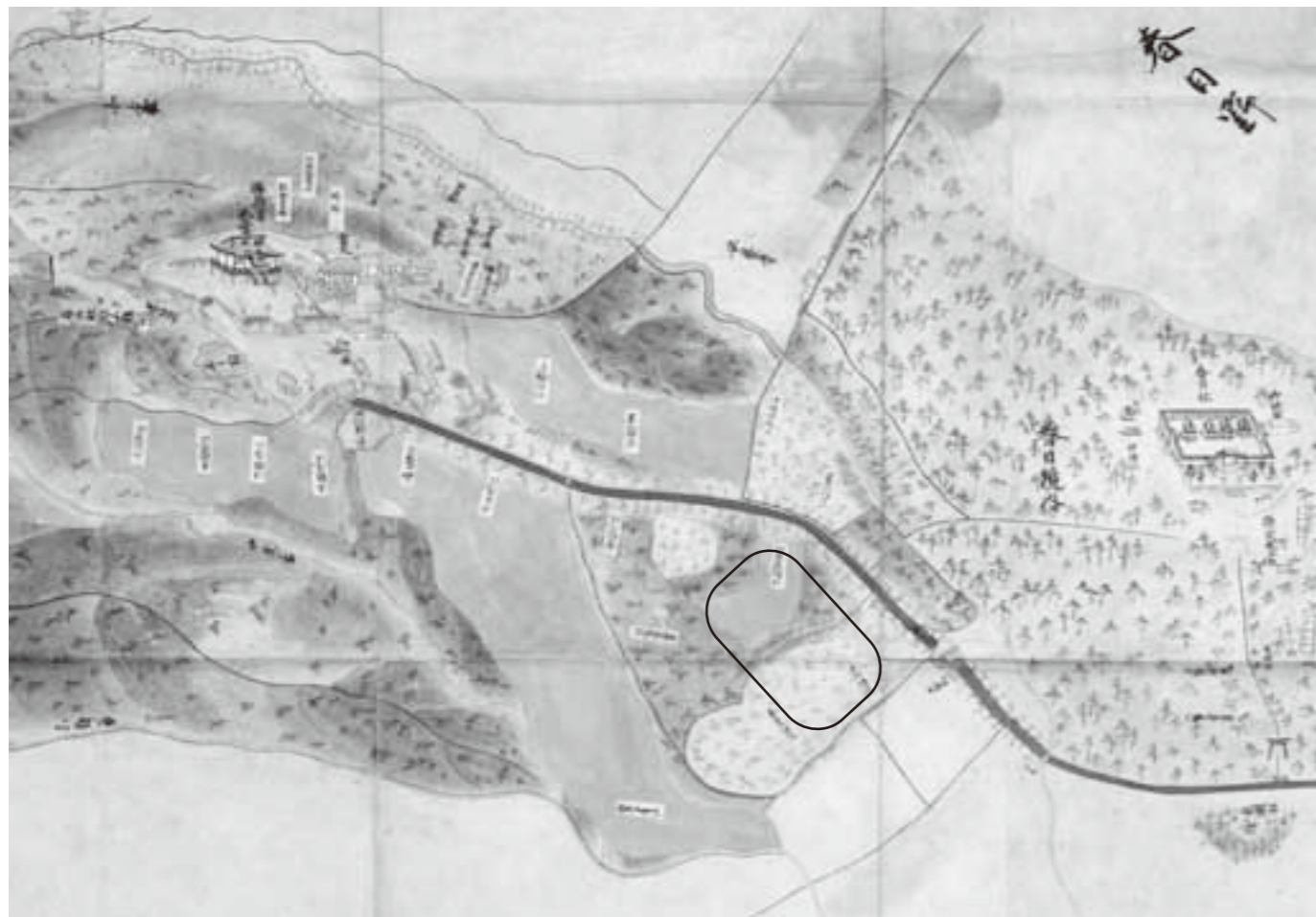


図3 勝持寺境内図 線で囲われている範囲が調査地（寛永元年・1641年 勝持寺蔵）

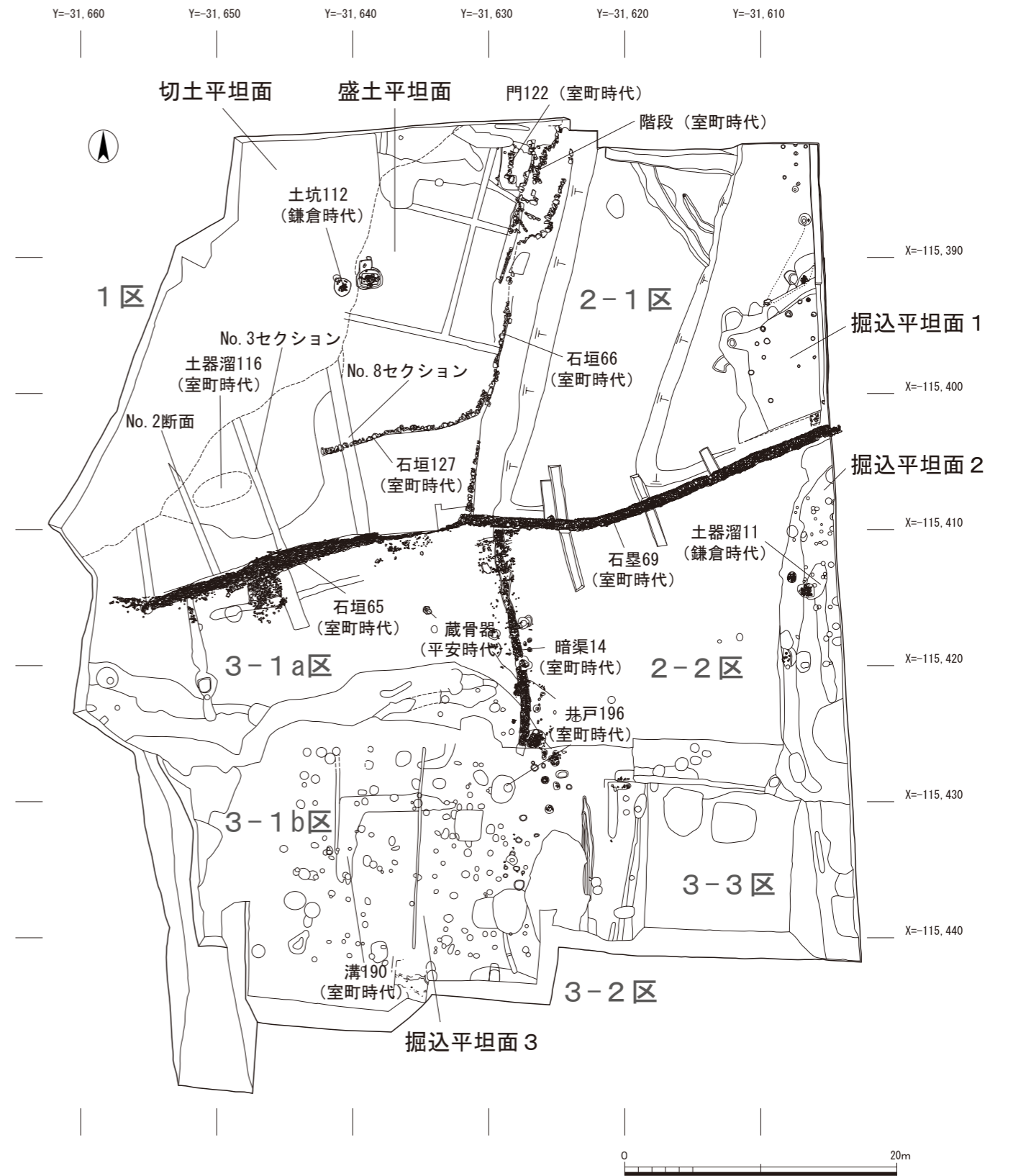
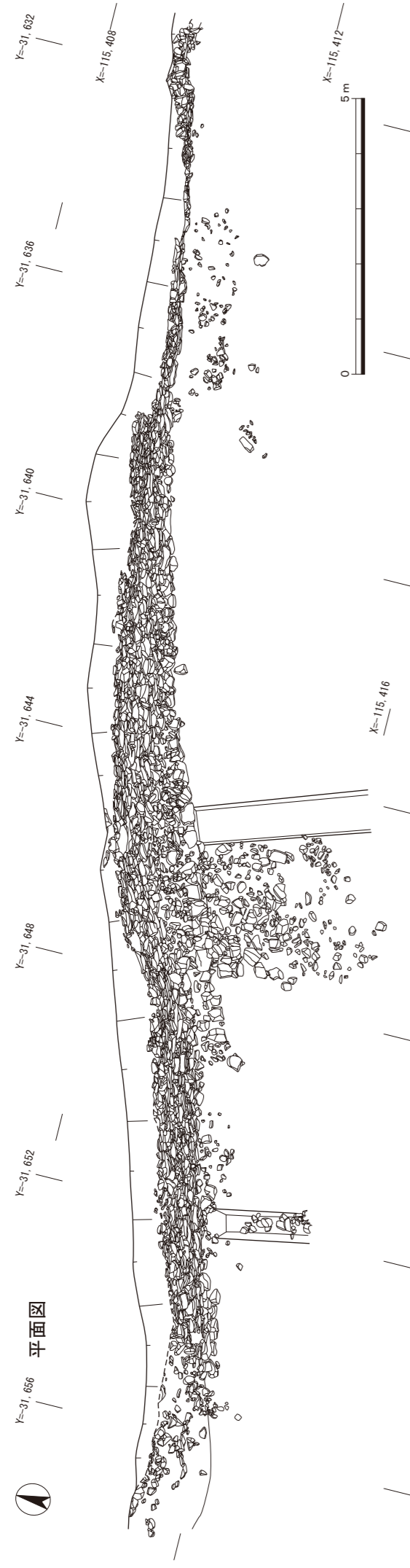


図4 遺構平面図 (1 : 400)



Y=31,648

立面图

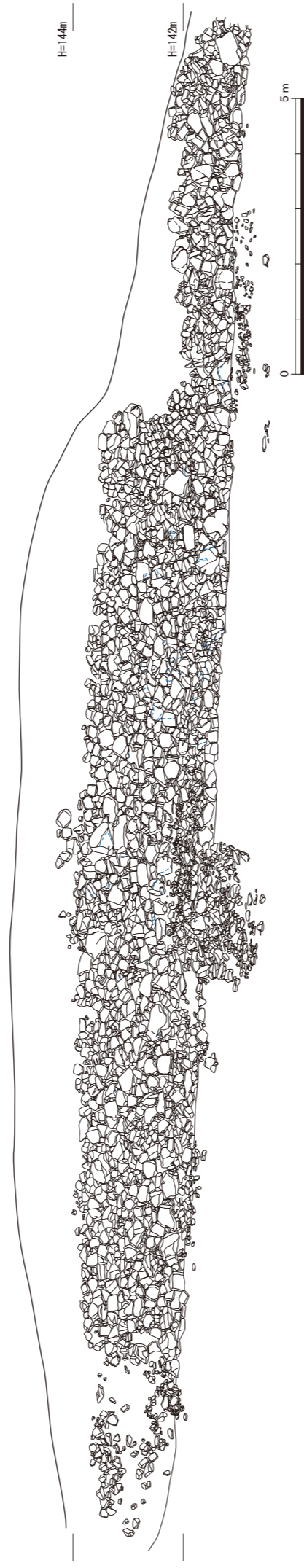


图5 石垣65 实测图



图6 石垣66 实测图

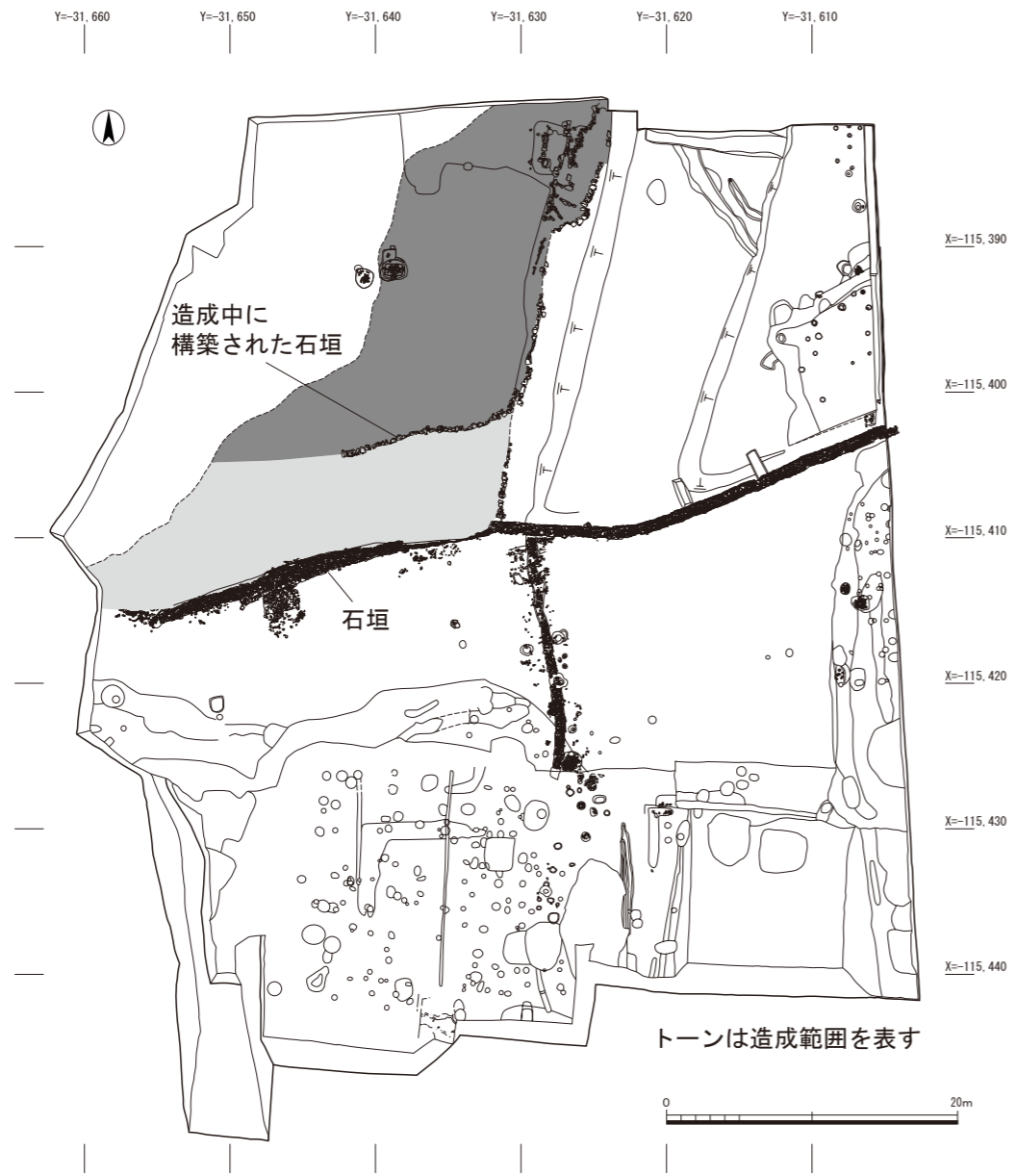


図7 調査区平面図

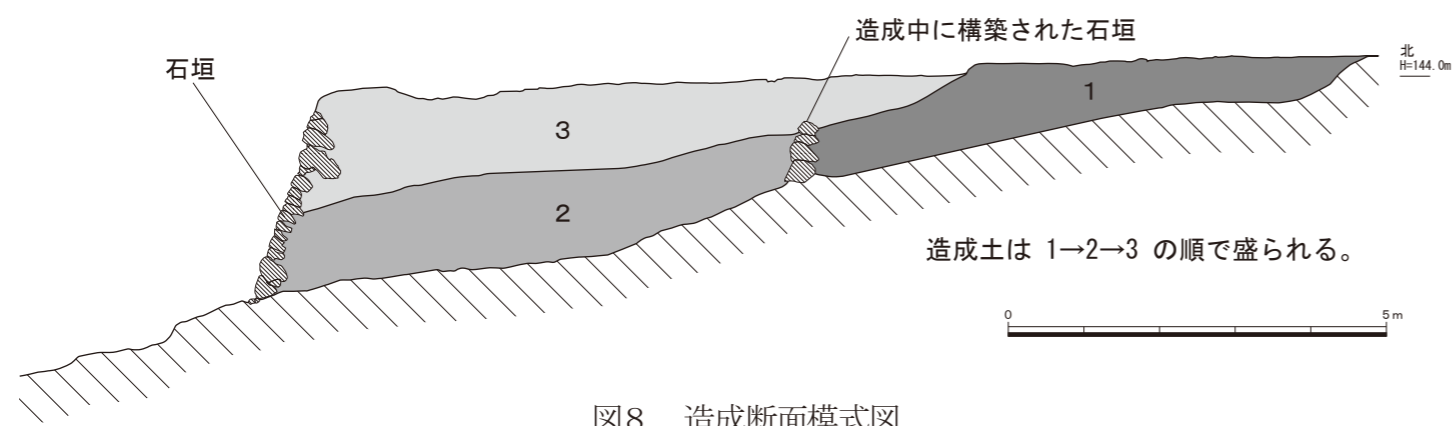


図8 造成断面模式図



図9 石垣 65 全景 (南東から)



図10 石垣 65 近景 (南東から)